

故事成語「蛇足」確認テスト（戦国策） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 数人之を飲まば足らず、一人之を飲まば余り有り。／「飲まば」は仮定の順接（～ならば）。「之」は卮酒を指す。

問2 請ふ地に画きて蛇を為り、先づ成る者酒を飲まん。／「請ふ」は「どうか～したい」という提案。「為り」は「描く」、「先づ成る者」は最初に描き上げた者。

問3 どうか地面に（蛇の絵を）描いて蛇を作る（描く）ことにしよう。／「請ふ」は願望・提案を表し、「さあ～しよう」と訳せる。

問4 描く（作る）。／ここでの「為」は「つくる」と読み、絵を「描く」意。

問5 酒（の杯）を手元に引き寄せて、今にもそれを飲もうとした。／「引く」は引き寄せる、「且に～んとす」は「今にも～しようとする」。

問6 私はその（蛇の）足を描くことができる。／「吾」は描き終えた者の自称。得意になって余計な足を描こうとしている。

問7 蛇にはもともと足が無い。／「固より」は「もともと・元来」。蛇に足を描くのは事実と反する余計なことだと指摘している。

問8 (1) 蛇を描き終えて足を描き足そうとしている者（最初に蛇を描き上げた者）。(2) あなたはどうして蛇の足を描くことができようか（いや、できはしない）。

問9 表面上は「どうして足を描けるのか」と問う形だが、実際には「足など描けるはずがない（蛇に足は無いのだから、お前の描いたものは蛇ではない）」と強く否定し、相手の行為を非難している。

問10 そのまま・とうとう（結局）。／「遂に」は「そのまま続けて」「結局」の意。

問11 後から蛇を描き上げた者。最初の者が余計な足を描いている間に蛇を完成させ、卮を奪ってそのまま酒を飲んでしまった。

問12 蛇の足を為る者は、終に其の酒を亡へり。／「為る」は描く、「終に」は結局、「亡ふ」は失う。

問13 蛇に足を描いた者は、結局その酒を失ってしまった。

問14 付け加える必要のない、かえって無駄になる余計なもの・行為のたとえ。

問15 （例）説明はこれで十分で、これ以上書き加えるのは蛇足になる。／（例）一言付け加えるのは蛇足かもしれないが…。

問16 (1) まさに（～んとす）(2) 今にも～しようとする（再読文字。「且に～んとす」の形で近い未来を表す）

問17 (1) もとより(2) もともと・元来（言うまでもなく、の意にもなる）

問18 反語。／「安くんぞ能く～ん」で「どうして～できようか、いや～できない」と強い否定を表す。

問19 蛇を最初に描き終えたにもかかわらず、得意になって本来は無い足まで描き足し、その間に他の者が蛇を完成させて酒を奪われたから。余計なことをしたために、勝ち取れたはずの酒を失った。

問20 物事はやり過ぎてはいけない。必要なところで止めず、余計なことをすると、かえってそれまでの成果を台無しにしてしまう、という教訓。

問21 『戦国策』（戦国策・斉策）。